

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その1)

計画体系コード	1-2-1		事業名	新しいタイプの定時制高校「市立札幌大通高等学校」の設置			
担当	教育委員会学校教育推進課企画担当 池端 211-3838						
全体計画							
事業内容	札幌市立高等学校教育改革推進計画に基づき、現在ある市立高等学校4校(星園、新川、平岸、啓北商業)の定時制課程を発展的に再編し、午前、午後、夜間の三部制や単位制を取り入れた新しいタイプの定時制高校(市立札幌大通高等学校)を旧大通小学校跡地に新設する。 平成20年度、旧大通小学校校舎を活用して開校、平成21年度内に新校舎完成、平成22年度新校舎への移転を予定している。 校舎の建設等については、民間の活用を進め、設計、建築、維持管理等の事業全体に係る経費の縮減を図るため、PFI手法を導入する。			<年度別の事業内容>			
				・平成19年度 PFI事業者の選定、暫定校舎の改修工事、新校舎の設計協議(PFI事業)、市立学校設置条例の改正、学校設置認可申請、市立高等学校学則の改正、教育内容の決定、生徒募集PR、入学者選抜の実施、科目履修生制度の検討など ・平成20年度 新定時制高校開校、新校舎建築工事(PFI事業) ・平成21年度(末) 新校舎竣工、暫定校舎から新校舎へ生徒引越し ・平成22年度 既存4校の統合(普通科3校の4年生は新定時制高校へ転校、商業科1校の4年生は新校舎へ校舎移転)			
事業内容・量・場所・規模・件数等	平成19年度事業内容(決算)			平成20年度事業内容(予算)			
	PFI事業アドバイザー業務 9,418千円 事業者選定委員会委員報酬 302千円 初度調弁 101,250千円 旧大通小学校改修 34,249千円			PFI事業アドバイザー業務 3,400千円			
達成目標の状況							
項目		18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (予定)	21年度末 (予定)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)
市立札幌大通高等学校の開設		-	準備	開設	/	/	開設 (20年度)
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
市民との連携、市民参加 ホームページなどにより市民への情報提供を行い、開かれた学校づくりに取り組む。 また、新校舎の新築工事期間中の諸問題や学校運営に関して近隣地域に係わる事柄に関することについて、近隣地域と協議・意見交換などを行い、円滑な学校運営を行っていく。 企業等との連携・協働 [資金協力] [人材協力] [情報協力] [その他の協力] 市民・企業等が参加しやすい環境づくり							

## 平成20年度第2次新まちづくり計画事業進行調書(その2) (単位:千円)

計画体系コード	1-2-1	事業名	新しいタイプの定時制高校「市立札幌大通高等学校」の設置				
評価(成果)		課題					
<p>・市立学校設置条例を改正し、市立札幌大通高等学校を設置した。</p> <p>・20年4月開校に向けて、専任の教職員が旧大通小学校内に設置された開校準備室に常駐し、教育内容の具体的な検討、暫定校舎及び新校舎での使用を前提とした最小限の初度調弁(第1期)を整備、入学者選抜事務をはじめとする開校準備業務を行った。</p> <p>・暫定校舎の改修工事を実施した。</p> <p>・事業者選定委員会によりPFI事業者が選定された。</p> <p>・事業者と特定事業契約を締結した。</p> <p>・新校舎の設計協議を行った。</p>		<p>大通高校新校舎に関するPFI事業者との調整業務を密に行う必要がある。</p> <p>また、新校舎の工事や学校運営等に関し、近隣地域の理解・協力が必要であることから、情報提供や協議を必要に応じて行っていく必要がある。(工事以外の生徒指導等に関する事柄は基本的には学校が対応することになるが、教育委員会は学校をサポートする立場で関わる事が想定される。)</p> <p>大通高校については、20年度は1学年のみ、21年度は1,2学年であり、22年度に他定時制から転校してくる生徒を含めて4学年となる。</p> <p>20・21年度は一時的に定時制高校が5校体制となり、また、定時制課程の生徒定員総数は変わらないが、既存校定時制課程と異なり大通高校については、定員を満たしていることから、20年度の市立高校定時制課程の在籍生徒総数は増加し、21年度についても同様の傾向となることが想定される。</p> <p>これらの理由により、20・21年度においては、定時制高校における学校運営に関する経費が一時的に増加することになることから、円滑な学校運営に支障をきたさないよう、予算確保について考えていく必要がある。</p>					
今後の事業の予定・方向							
<p>引き続き設計PFI事業者との協議を実施し、平成20年8月に新校舎建設工事に着工、平成22年3月竣工を目指す。(必要に応じて、近隣地域への工事説明会などを実施する。)</p> <p>また、平成22年度から新校舎の供用が開始される予定だが、地域に開かれた学校づくりを進めるため、新校舎の施設の一部を市民に開放することし、PFI事業者の業務範囲に、運営事業の一項目として「市民開放施設管理運営業務」を含め、これに伴う使用料の徴収についても、PFI事業者の業務とすることを想定し、「要求水準書」「特定事業契約書」などを作成している。</p> <p>大通高校の市民開放において、利用受付や使用料の徴収事務をPFI事業者に委託することは利用者の大幅な利便性の向上を図ることができることから、これをスムーズに実施できるように準備を進める。</p> <p>加えて、教育内容等に関しては、多様な生徒の学習ニーズに対応した特色ある教育活動の推進を図るとともに、学校の教育機能の地域社会への提供の観点から、学校運営上、支障のない範囲で、一部の科目の学習を希望する社会人を聴講生として受け入れる「科目履修生制度」を、幅広い選択科目の開設が可能となる平成21年度から実施するため、その準備を進める。</p>							
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	156,400	4,000	2,250,932	258,668	2,670,000	
	財源内訳	国・道支出金	0	0	38,430	0	38,430
		市債	0	0	1,736,000	0	1,736,000
		その他	0	0	0	0	0
		一般財源	156,400	4,000	476,502	258,668	895,570
予算	事業費	156,400	3,400	-	-	159,800	
	財源内訳	国・道支出金	0	0			0
		市債	0	0			0
		その他	0	0			0
		一般財源	156,400	3,400			159,800
実績	事業費	145,219	-	-	-	145,219	
	財源内訳	国・道支出金	0				0
		市債	0				0
		その他	0				0
		一般財源	145,219				145,219
事業費の進捗率		(19年度実績事業費 + 20年度予算事業費) / (計画事業費)				5.6%	
計画との差異(予算・事業内容・規模・時期等)							
(全体)							
[19年度]							
[20年度]							